

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

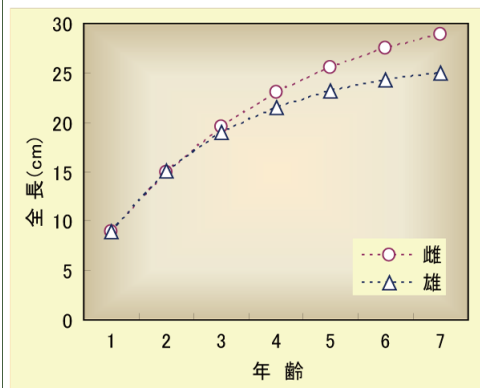
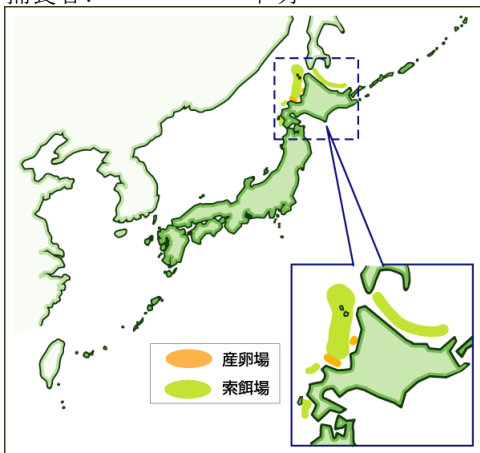
系群名 北海道北部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳以上
成熟開始年齢: 雄2歳(50%以上)、雌3歳(50%以上)
産卵期・産卵場: 5～9月(中心は7月)、主に奥平沖(水深60～80m)と増毛～留萌沖(水深60m)
索餌期・索餌場: 北海道の日本海側～オホーツク海側の沿岸
食性: 成魚はイカナゴ、タラ類幼魚、その他の小型魚類、オキアミ類、クモヒトデ類、多毛類、イカ類、エビ類、二枚貝類
捕食者: 不明

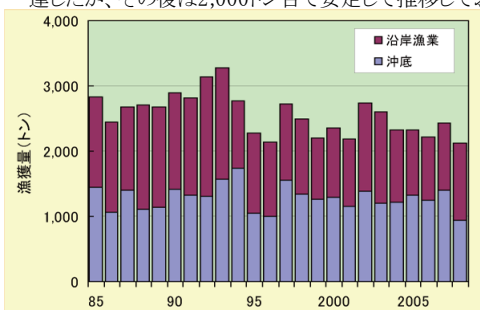


漁業の特徴

ソウハチ北海道北部系群の大部分は、沖合底びき網漁業(沖底)と刺し網漁業によって漁獲されており、沖底は主に9～4月に索餌群を、刺し網漁業は主に4～7月に産卵群を漁獲している。日本海に比べると、オホーツク海における漁獲量は非常に少ない。

漁獲の動向

沖底の漁獲量は、1982年以降概ね1,000トン台で推移しており、2008年は945トンであった。沿岸漁業の漁獲量は、1985～1993年には1,500トン付近で推移していたが、1994年以降は1,000トン付近で推移しており、2008年は1,183トンであった。沖底と沿岸漁業を合わせた漁獲量は、1980年代後半以降増加傾向を示し、1993年には約3,300トンに達したが、その後は2,000トン台で安定して推移しており、2008年は2,128トンであった。

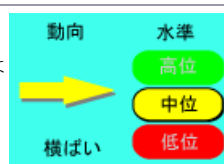


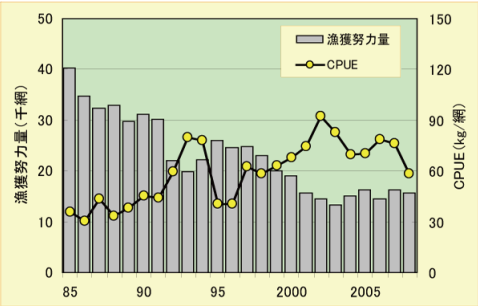
資源評価法

CPUEは沖底についてのみ算出可能であるが、1993、1994および近年における高い沖底のCPUEは、ソウハチが主に分布する海域での操業によるものと考えられている。また、主要な漁業である沖底と刺し網漁業では漁場や漁期が異なることから、沖底のCPUEを本系群全体の資源量の指標とすることは妥当ではないと推察されるため、漁獲量を基に資源状態を判断した。なお、北海道立水産試験場(北水試)は、本系群についてコホート解析による資源量推定を行っているため、その結果も参考とした。

資源状態

過去24年間(1985～2008年)における漁獲量の平均値を50とすると、2008年の漁獲量は42に相当するため、資源水準は中位と判断した(低位:～30、中位:30～70、高位:70～)。また、過去5年間(2004～2008年)における漁獲量の変化パターンから、資源動向は横ばいと判断した。なお、北水試が推定した雌の資源量は、1985漁期年(8月1日～翌年の7月31日)以降増加傾向にある。





管理方策

漁獲量は1990年代後半以降安定して推移しており、資源状態は中位で横ばいと判断された。また、北水試が推定した雌の資源量も、1985漁期年以降増加傾向にある。よって、現状の漁獲圧を継続しても、資源水準が低位になる可能性は低いと推測されるため、現状の漁獲圧を継続することにより、現在の資源水準(中位)以上を維持することを管理目標とした。ABC算定規則2-2)-(2)に基づき、過去5年間(2004～2008年)の平均漁獲量をABClimitとし、ABClimit×0.8をABCtargetとした。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	23百トン	Cave5-yr	—	—
ABCtarget	18百トン	0.8Cave5-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 漁獲量を基に資源状態を判断
- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 雌の資源量は1985漁期年以降増加傾向

管理方策のまとめ

- 漁獲量は1990年代後半以降安定して推移
- 現状の漁獲圧を継続しても、資源水準が低位になる可能性は低い
- 現状の漁獲圧を継続することにより、現在の資源水準以上を維持することを目標にABCを算定

平成21年10月16日更新

資源評価は毎年更新されます。